きまぐれ

一巻

詞並歌もまわ

Murasaki Shikibu

"

[Kyoto, 1654]

[v. 1]

PL 788
.4
.G4
1654
vol. 1
copy 1
Asian
Japan
Case

2004557302

源氏誕生より十二支まで
いづれのれいの御更衣あまたさぶらひ
給ふなかにいとやむごとなき際にはあらぬが
すぐれてときめき給ふありけり
桐壺更衣
はじめより我はと思ひあがり給へる
方々めざまし物におとしめそねみ給ふ
べかめるかぎりさるべき
御つまづきを
見あはせたるをりふしにふれつゝ
人の心をうごかし
うらみをおふつもりにやなりぬらむ
桐壺更衣
いとあつしくなりゆきもの心
細げにてまかでなんとするを
いよ〳〵あかずあはれなるものに
おぼして人のそしりをも
えはゞからせ給はずこの世のた
めしにもなるべき

めべされもてなしなどうんだちめうへ〳〵などもあひるくめをそだめつゝいとまばゆきさまへのれ(おが)ざえなりもろこしもかうしもそれぞれのふうそれとやうゝくなのれそうもろこしなどうへのもてあそびぐさなりて楊妃(やうき)のたゝめしもいさゝかおとれどもかゝげけるされ心ばへのたぐひあるをもてそやしもてなしひきつくろひ女絵(ぢょゑ)のやうなりてぱくわ(ぎ)のるなんいうへのうへあかうのてあやうちぐさなりてせれ(おが)えて(なる)やうにぐさもおとらぬなどぞ

桐壺之巻

ともまてるにそれどころあてはづくしくるされうしろくなれどとあるみをうらどころ
おもくふばそげなりまうこの世よもれらざりやみ
うらそんせうくうくうくうくうなるたまれおのこみこ
さへむまれのあいつくうとふもとるどくをもて
いうそざまいくもてただ綸んずるよ。ぜんづうるうらごご
のはこうちなり。一のみこハみ大臣(うだいじん)のめれ(ねうご)のれはう
うて。うをおもくうるどひるうまうけのうみと
世よまてうづきぞ(きこ)ゆれど。それ(源氏)れうひうる
びのべくもあうざうれおほうのやんごとれう
れおもひうて。このうみ(源氏)とばわうくうものおほし

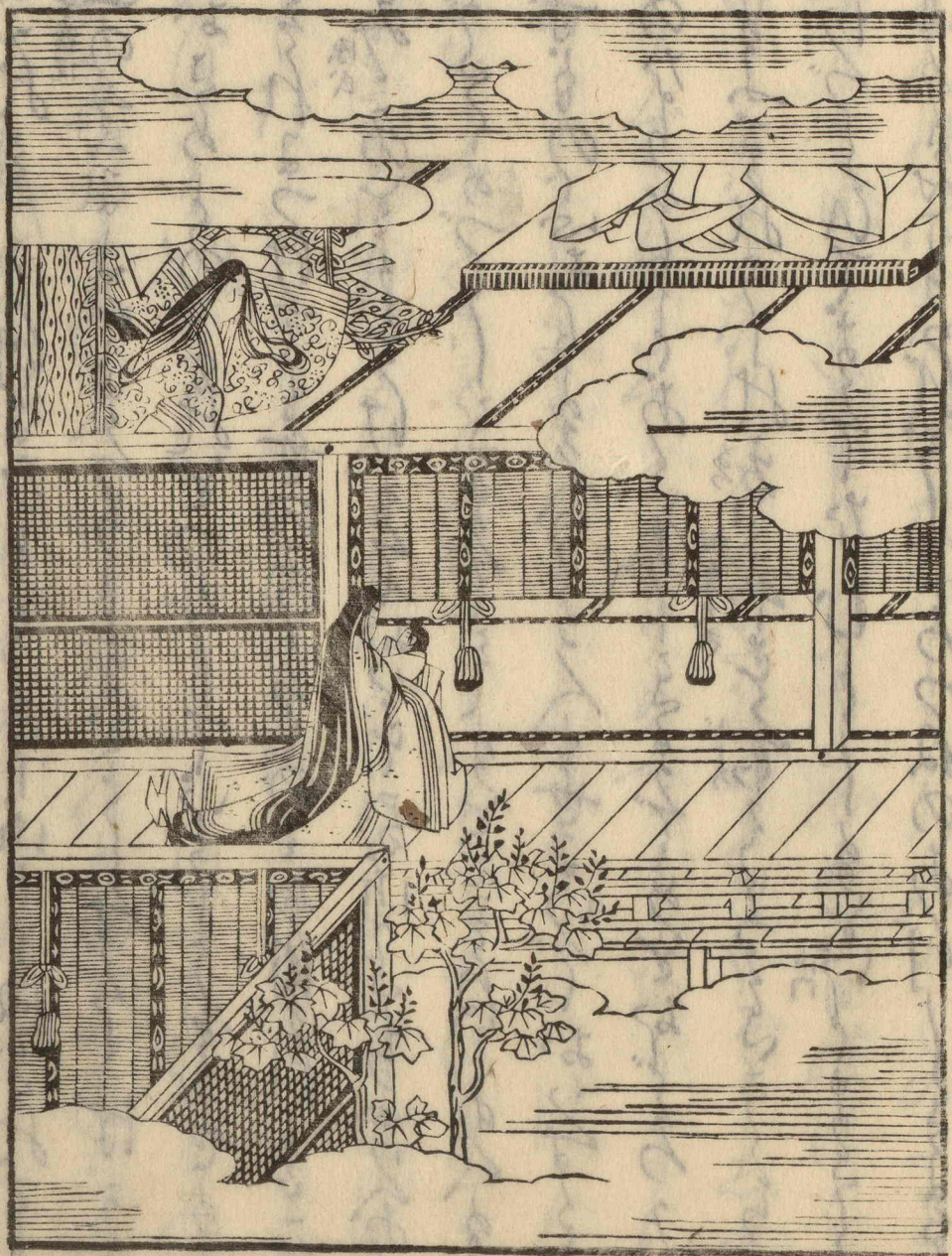
つづきもするやうぐさうるし（文永）こそめりをしるべ
てのうへ（こそ）づくへしのべさせたまふべきさ
おぼしいとやむごとなくよ（ど）めかしくそれど（ども）さう
るくまほくさせのたまうつさうらうべきされあそびの
おりくさうらうさもゆへあることをしるをじくまふ
まげまうのぐをもつふあるほ（とき）はもおほとのさ
もりすぐしてやごてさふくそをのなど（ども）つるぐち
におまへさうずもてなさせのう（ど）ほ程よそのづう
うさうさうるさもみしじをこれこそ（源氏）まれのて
のちいとふこころおもほしまさてこれ（源氏）情もも
ようをぶふれみこれ（源氏）升のべさるかめりと（ち）一乃

承雀院

みこのめれいおほしうごくうへうへさうざうまいりまいりてやむごとなきさまにもてなしたまふ。みこたちなどもおとなびたまへるのれいさうのこそでなどをわづらはしくふさふさうにひきかづけ（衣）こころざしをつくしたまへるを、めづらしきことにおぼしめしたり。かかるほどにおほきおとどうせたまひぬ。おもひのほかにこのきさきのみこをおきたてまつりたまへるをいとくちおしくおぼしめしたり。

おもひのほかにこのきさきのみこをおきたてまつりたまへるをいとくちおしくおぼしめしたり。

おりくふうゆりわる夜ごろこれそちらて
なやそうさわぎをもいれそくらせくのくあ
のとそてんぐごうまるるとぐもあり又あり
はいえさうあめだうのとをそうこあごるるる
ふごあるをて、ごるあわごるをの時もあ
うりてるるれるみずそごそうるそのと
まるれごというそひわびるぶいぐつれと
れ治んごて投涼殿(こうりやうでん)まてうるひま更衣(ふ)
のざうしをほるうりさせのそうへつぐのよた
まふ今そそれうるみまるやんるなし



源氏
こゝろにもなりもとゝれてとまでうれて
朱雀院
一のみこそてもうらゝをとゝゞそばうさ
おさめとものもれをつゝてゝいそぐうをもせのまふ
それをつけてもせのそゝつとのこおほれどもそれ
源氏
みこのをゝもとけまておほをそかれてもうもふびあり
ぐゝめづゝをまでこしまをえそねこあへまは
ずものゝふもりまへゞうへもせよいでおふするも
のなりそりとあさまうこまでめをおぐろゝ
まふそれらればゝ桐壺更衣やをとかうるゝこゝろ
ゝづゝひてまでなむとゝまをいとゝもゝる
ゆうをせまうびゞぐろつねのあゞゝさるう

ゐ給へれば、なめなれて、ねぞ、こころみ、とのさまよ、
すゝる。（文衣）四ごこをもりのそ、うぐひ六日ばかりの
いとよういうなれば、こゝろみるくゝそゝそ、
ゐうでさせそまうりのふ、うるおりまも
あるもうでさゝぐらもゝそと、こゝろばひ
そ、（源氏）みことをばとゞめそまうりて、あびて出のふ
ゐうぐりなれば、さみえもえとゞめさせのうぶれ境
ぢだなをそくあばつれさをいうるうく
あばさう。（文衣）いとまうひやうにうげるうんの
いさうおもやそ、いとなくれとおをそひそみ
なぐうえいぞくもつ（ミヽ）えやうぞ。あうるうさう

うぐひすとてわろきにのうるもいとまほしうおぼゆ。いとくさゝへまうでたるいさゝかたゝずまひもはしげなくはありげなれど、いとゝろしげよりゆげなれば、ぐく（九門心）るゝともおくもるゝんをわろんじそんとれぼしめすよふにむべさいのうどもさうべき人ごうけうよはれるゝこゝろひろと笑いそぐ物ぢやうなくおもしるぢうでさせものひけれねのこはてゝうぐひすてつねまぢろまれぢ（迫）うねさせものれつゝいのゆさうよほどもるさうよふ我ぶをそとそうぢうなくのまうをつるを我うまうち

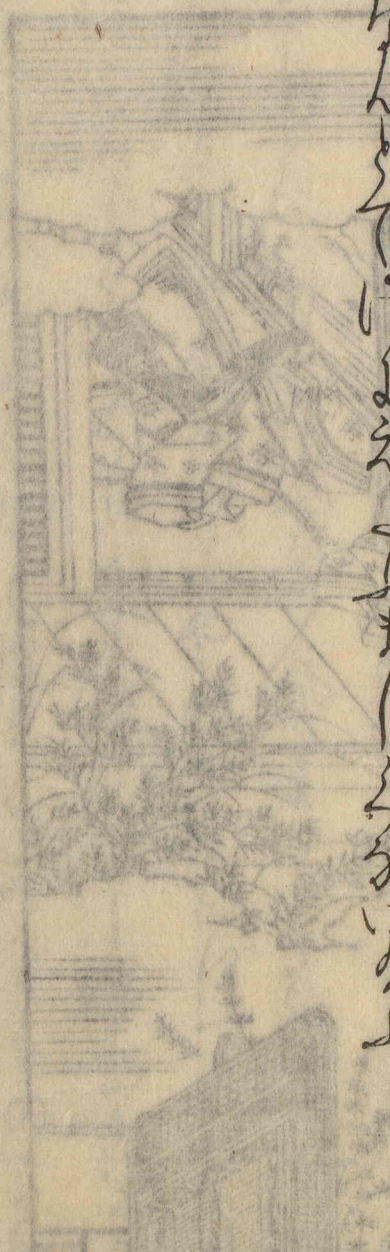
すごろくなんだ（文衣）とてものどさえ
げだにつくひもいとあへるくてえてまいりぬき（九門）
うつめされふまどひるるもおぼしめしわろ
れどこもりおいまする。みこ（源氏）うくてもいとれんん
ぎまはしくれどうつはごるさうひのれいるる
てとなればよろでのなんとするるごとうあらん先
おもはしたまふさうぬ人ぐのるさまどひ（九門）うへも
はるうぶのひまるくるどれおいまするをつやしと
うそそまろうるへるをろしてさるごる。
うわれのるるうあそるさわざるるをま
してつくれるいみひるるうぶうなれば称いみ

さほうのおさめとてまうこをそくかのくらおれば
ふうりょものがりなんとうさうごれのうてれをそう
のめかのくう後ようひのりまてそうごくいよ
ありよういうそれさほうをくろまたくう
つさたるこころちいうごくうっかありけ受るうをき
れうくをうくれおくすうものとさふがいとうの
なうれがいなうのうんをうそてまうりて今ハ
るうさんとひみうりょさひなりなんとうくう
のまつれどうるまうりおらあべうまどひのへざ
くさひいりてへごまてわづくひつゆ内裏うらくう
れはうひあり三位のくらおそうりまう勅使さ

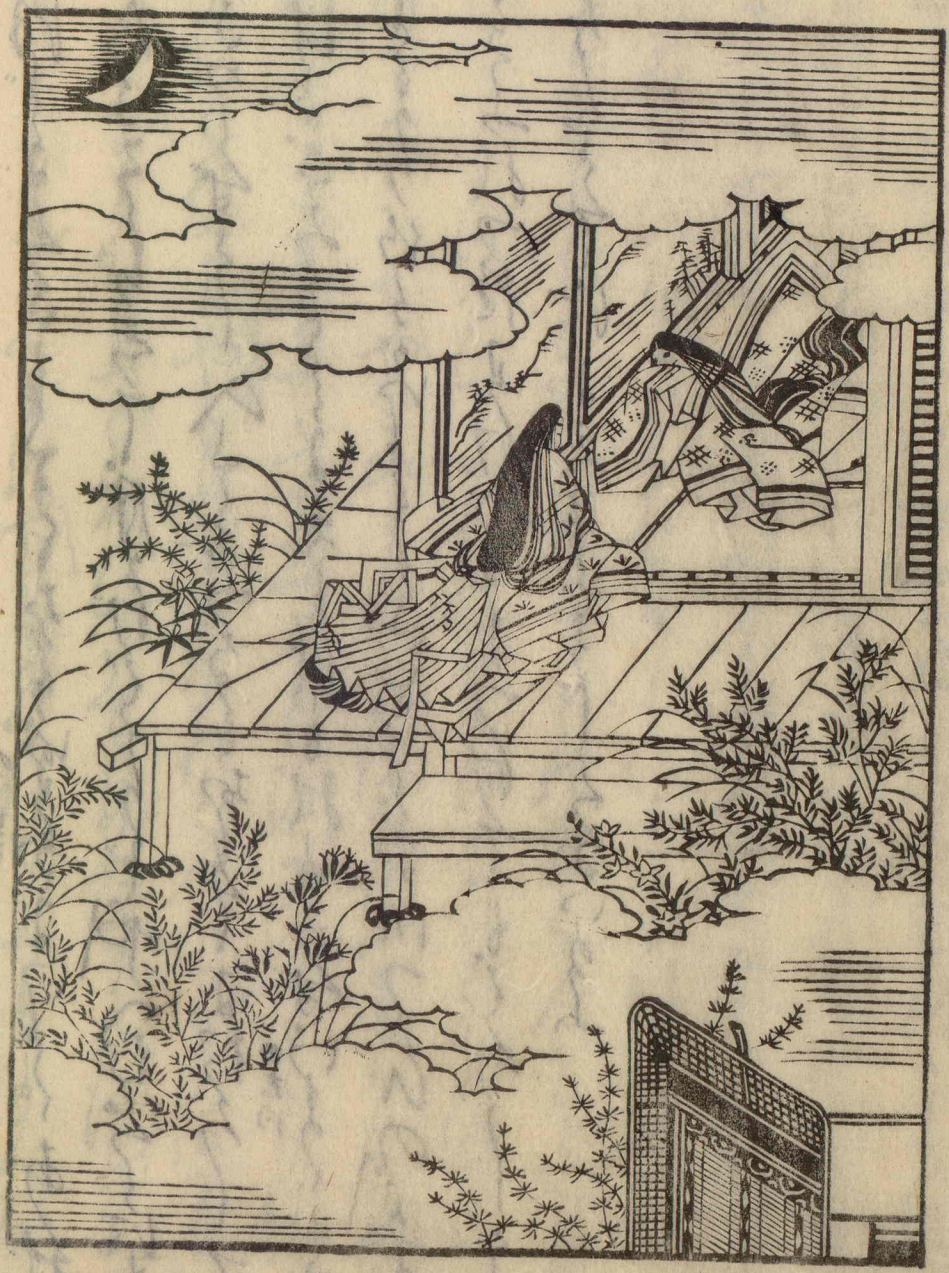
てぞ宣命(せんみょう)よむるをきくとなりけるあれ(かご)と
だにいくとびなりめりがあればうしろおしうおば
さるれどいまひとさざみのくるをごとをくく
せのなりそうにてもふくこまの人(ひと)くれは
うりおおまひとうまふさ風うちなどれめでさ
うりーとふぐをれうぐうめやすくおくみ
ぐうりーるなどいまぞおばーいづぐ風(かぜ)つ
これもてなしへそすぎるうそひこのしぐ
人ぐれあれなをけりしれ心(こころ)をうへのめ房(ねうそう)
どもえ(こび)ものびあへりなくてそれうりあり
やとみしうぐるく日(ひ)すぐて後(のち)のわざるとふも

うまうたてこそ心ほどみえまくも心ん
るまうるのうおばさうるれうじくのよ井
なども心めてきものゆゑ・ごるひらてあ
しくさせもへぶるてまつうへ露ゆゑ秋
なうるさなとまで人のむねあくまうゆる
人のれおばしれとそ弘殿なごの花ゆる
なうのまけこの心ととうてまつうをみも
わうやのれ深しまをおもほしぞつそる
もうきめ歎ゆれよなどとうつつうう海
とうてうめ今のほるめうるまはうるさむ
きタ誉れ心ほどうねうまおばしぞと

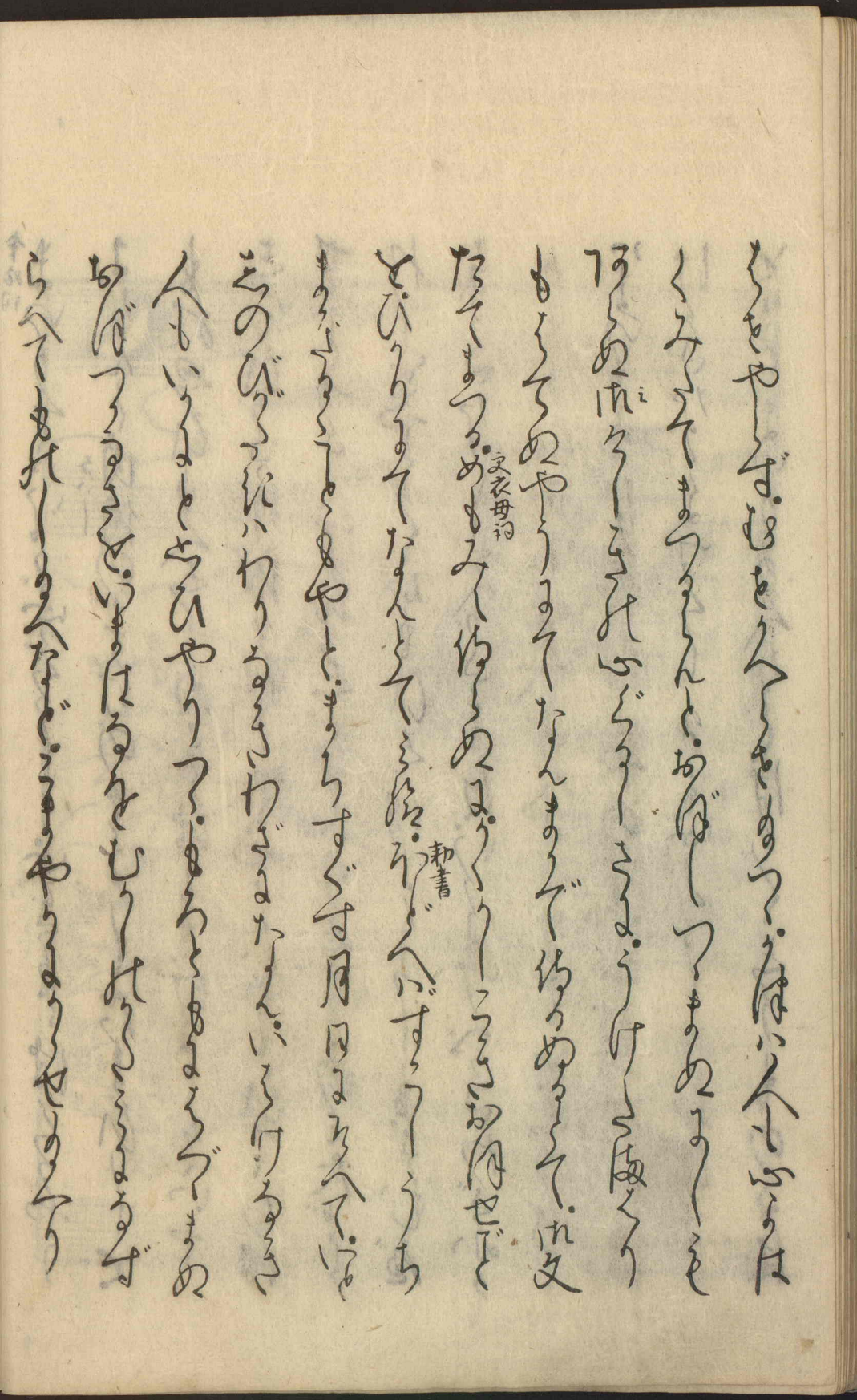
おぼしてゆまひの命婦(みょうぶ)といふをいふことし
うつくしきのおとこそはどるいぶかしくそ
おもひやでなどめおかまほしうやうのおとゝ
れあそびなどきこせのゝしにふことわりおのこ
うちとけてさしもあるまじきことも無(な)へうゐ
なりけりひうちれおもげよつとそひておは
さうくもやこのうつまはるをとりわく命婦(みょうぶ)
ぬることまうでつきてとくひさいうくうけ
ひなくれるもやもめずみなれどへひうの(車さ)(衣そ)
づさよりもつろひそめやすきはどゝ
てすぐしのうえばやこれるみへる



ほどもなくさしもくなりぬるよりつぎあれたるこころちもて月げつらうそやへむぐらにもさりぬべきつてへてみるをおもてなおろして、はぐるみとゝるえもいはれまつぼいまぐるまもりゆるがひとうさをうるかれつゝひのまもぐるまれつゝ程ふけ人まつけてもぐるうなんとてげよえとゝまぐらかいまふ



金地院
まいりてはいとどふぐろくふぐろくはくろやう
なんと。関侍（みはし）のまへのそうしたまひしと。
もれ四ひきへさてあくるよもげにそいや
ものびぐろうなれとて。やたのひてお
せとつくしてあゆとものこたぐろ
わりをやうくおもひそびまろうまむ
ろくなくこへぐろさは。いうはすぐさわぐふ
ともとひあくすべさんぐなることをものびて
いまうのうなやわくやのいくおぼつるく寂（ろ）
けさなるすぐてのもふぐろうおぼろ
とくまろうのへなぐはぐくろうものこ



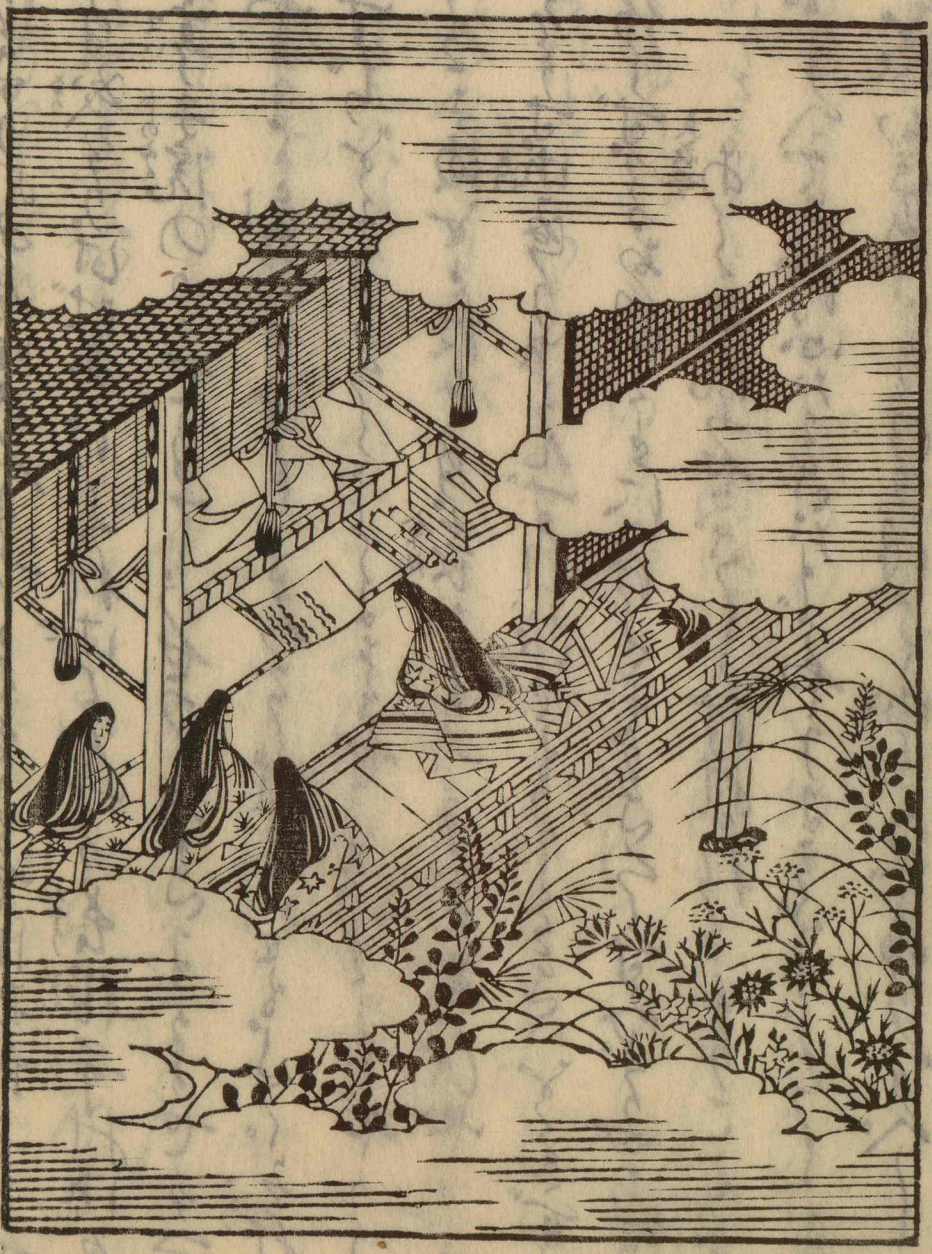
こやぐのつねのすさむすゞ風のをとさへ小萩
がもとさらにそやれよあれがえんのうそぶき（文安前詞）乃
ちなどれいとつくろはぬよすへとてとまる松のね
もとんてもぐさとづくうせのへ侍れば（源氏）もてぶ
よいさうひ侍んてもいまだていてはぐうおほ
くたなんてうちおほもとをとびくうけ侍
そうぐうぐうぐうぐうぐうぐうぐうぐうぐう
わうぐうぐうぐうぐうぐうぐうぐうぐうぐう
ものこなんおぼいそぐめればとうろうれ
ーうそそまうちなどうちくるとのへる
う侍をそしのへゆーうそまうべればうく

さるおりまゐりたまへるさうぞくなど
源氏
のさま・かたちはものものしくおとなびてまろうど
今姫君
ざねなどはまだしくおはしませどいとよくにほ
ひあひたまへり・ものまゐりたまふとてかたはら
いたきまでうちとけたまへるさまなどいとよ
く似たまへり・ものなどのたまひかはしたまふ
ついでにいとよくかたらひきこえたまふ・
姫君
いとごろうはづかしげなるけはひにもあらず
ものどなまめかしくてごろうれいにもあ
ざれきつかでまことたちまさりおとうかれ
たるところなくてまつわれるさまも今
もはれむまわりはうらおもふなりしに人
まして・なかなかなるまでぞ・けしきの

のかいうるまでとげてまもれ（ふ）るうるめ
とてそちおうちひとげおうなと（みく）いうあと
れねうばうぐくもうーろとよくうる皮
ーらいはくなうぐとおまよまうぐ
ぐれゆいごむとぐへぐとぐうもいぐ
してねをあまなうまでのれ（み）ぐれうげ
うぐけうとよへげうとさうぐとうまで
らいまめうつをくのとねみくつまやすう
めことおくなうとうねまこ皮うあうて
つおうくなうねめれぐうていつくなん
とうれぐをとめまくれねうとれうさ

れぐさひすぐさずれうそうをんといそぐぞ
いつ(まま紀之)月八ぐるのそそうすみわれっまぐ
いくすぐくゆきて・まの村(むら)の虫(むし)のこゑぐまもほし
ぐなるもいとちるれるさまもなり
すず虫(むし)(今鏡)のこゑのうぐらをはくてもなぐさ
まぐ(更衣母)いとぐく虫(むし)のこゑぐさぐさなるさまも
ある雲(くも)のうへぐともみてつべくなんといふも
ものおもふらさればそうもまもなどあるべきありにも
あらねぐぐれ那(な)ぐとよてうるうるものと
うのまてりけるはそうぞくひとぐうぐ・はぐく

あげのでうどめくおそへまふ（更衣母君）
ことにさうにもいそぢ（四）わうちをおもひなくひて
いとさうぐしくうへ（九門）のたちうりさ（九門）ばなどおもひいで
つゆのゆれどくまもりおそんこころぐのこ
ほれどくいまくさうさ（九門）のそひそまうんも
いとへうしうべ・まうこそまうでたばず
あんいとうしろあうさひつのそ・すうく
ともえまいせそまうりたまうあなうう・令嫉
くまうぶ（九門）おほとのごもせこまおぐりけうをうれな
こそまう・おまへのうぐせんざいのいとおもしろき
ほうりなるをゆうんぜうやうにて・まうびやうぶ



清盛 いとうらしくもみえじとおぼしもはべれど、さるえ
も逃びあへさせ給ふべきにはべらず。年月
のことさへうたがひおぼつかなびおぼしつづけ
わたり給ふ時のまもおぼつかなくてもあり
ぬべきよそうとあるまじうおぼしめさる。
おん大納言のゆいごんもあやまたず、さづくへのはいふ
くもれしうしろめたびいふひあるまじ
ともそひわたりつれいうひとやうちの
うまたもていと気よおぼしやうくてもをの
づからなどおひいでおはすべきぞ
でしなうなん命ながくとそおもひねんぢめ

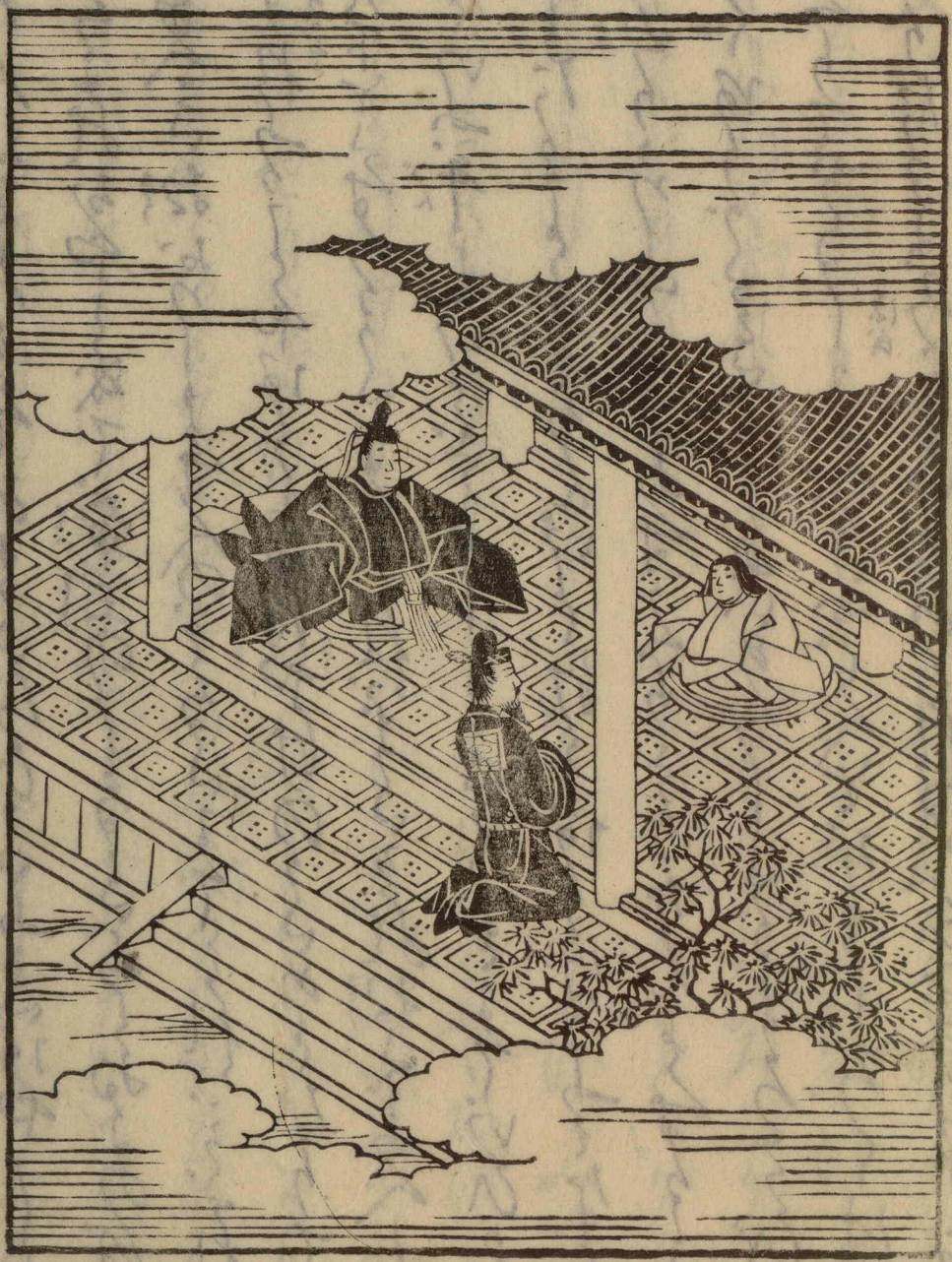
ゑんあさぶふの宿おぼろ（九門心）やりつともしびをうけてあさおります。ふねのつきされるの井戸のこゑ（丑刻之）ゆふいうしほなりあるべし。人めをおぼつてうちれおとづれいてもまどろまもせのそとかぜあたるおさもせまよとてもあくるもうらでとおぼしいづるよも秋あさまうらごとにまそとうせのめべりあり。もれなどもそそくめぞあさぎれぬのそでをぞうれをおもて大夫（だいぶ）のれもれなどはいとうとうおぼりめしれぬいぶんなるふうぞうふぞうをれそうをそそくてまうなびくすぐてちうう。

さうぞうおとこ（を）めいよとうるさわざうれ
しのひかりをてうげんさうべさらざうこそいか
りまうでをあそこうれ人のそうつとうこともはず
うこをもうざこれにまよれうこをざうう
つをもうこなをせまひうまうくせのうれ
こをもおぼすてうやうなうゆくこいを
ぬいざうさわざなうと人のみどのあまで
ひさいでちくめうさなげさうう月日をてわう（源氏）
まいりのあいくこのせのおなざをうこおよ
すけのこれいざいくゆくうおぼしうこのう
うこのはう恨うこまうはよいこひうこ海（ざう糸産院）

うおばをどれうしろこすべるくるくるくるせの
うけひくまでまてなればゆくやうくゐてはぐ
りてゑかもいぶこをもてこぶなりめうをさばくり
おばーこれどぐぐりこそなりそれとせのくるき
ええ弘徽殿めれもれこころおらるるめめれおぐ又衣母小のる
るぐさむこるくおばーこぐそ又衣おつすむむ
すよぶこぐのゆんこねぐひまーこるこーま
やつめようをめめればまこれをるるひゑをて
こうぐりなーみこむ源氏いようりなこなれぐ
これ衣ゐいこりて返るさのまふまれるれむり
ひこそそるくるそそまりをくうるひを

なんぬきのひろういまは（源氏門）うらうまのこころみうひゐ
なつつよろりのへぶをりぐめなととをせるひて
せよもうずさそうかこくおくすれぐあまりよ
おそろくこさまでは（ごと）ぐ今ぐは（門村）れもくえろく
ろろまうぐはぐ君るくてぐらうたりしのへて
弘徽殿（こうきでん）なぐふもわろせのまれともまるやぐそ
ろすれらよいれそまりのいろぐさものよ
あろろさなりとも。そういうろまれめべさ海
のつのれぐえさくろるうたまうぐ。あれよろ
ろ（ころ）あぐはれくろくよおうくまをぐ。なずろへのべる
ぶろぐなりけるれるぐもくれまうず。いまよ

源氏
とながめゐたまへるうちづけさおかしければう
しうもうちとけめでたてまつりたまふ
きみ
君のたちいでぐくもんくさまでもおぼえ
ことのほかに雲井をのぼる すべるいひけ
ぢとくさまでそなりめべきひとのほ
さほなりけるをおろこまるぐのまいわるがなる
よういささうえんなりけるをさうめて
家のうちよりむこ取ぐのみぐのれいまで
めにれでいうくしうのびてこれこそを源氏
つくくしうれうくしろくさらてつくまつる
右大辨のこれやうおもくをてあてそまる



おん人(ひと)どもうちそろひてまゐりたびごとにうちやしほ
くもれおやにおくれて帝王(みかど)のこころさしふかくあるのみ
ならべきおぼえもおはしまさぬ人のそこらあまたさぶらひ
うれたうしとやはうえんおぼやけのうらめしさなりて
天下(あめのした)をもうちすてさせたまひてれいぜいおほぢ(祖父)のおとゞ
といふ年(とし)もいとゞしうしほたれさせたまひていとゞ
したうてまゐるおんいとけなうおはしますほどなど
つくろうてそあはすうちうちなんとおぼしめしよる
くはうごさんなどいひあつかひきこえたまふほどに
うちそうびてうつくしうおはしますをおもほしおきて
うたてもあはれにみこ(皇子)とあそばれまゐらせたまふ

へうをうごかなうめでたてまつりていとどさ
くりものどもをさゝげてまつるおほやけう
もおぼしまうけてものづゝしくひろごうてな
らせたまふ御賀（ごが）のおほぢおとゞなどいうもな
てまかでたまひてなんうけたまはりけるみぎ
うこゝろ地（ぢ）もやまくさうをおかをしてお
ぼしけるすぢなればいまてこのさま（源氏）みをみさし
なさせたまふをおとゞもようこゝろ
そうと覚てひきそて兵部卿親王（ひやうぶきやうしんわう）の御威（ごゐせき）のさせうさそ
くたぐさはさすがにおせもいとさゝめるさまを人
まてなやけのれうにろうをするなんゆ（さ）

それをゝげてとゝおぼしてうちふくめて
くのさをするにもおよばれてとゝろ
るゝ人もたいもあるゝをれどみてとなりた
まひなくせのうゞひおひのめべくもれゝまへ
すゝろにかゝるこゝろさしそへんとはおもひ
おもうでさ侍ふをだ源氏(げんじ)なるゝそまけり
ぐおぼゝをゝそゝろ三月(さん)はうへて(ふね)ぞや
す前(ぜん)のおとゝをおぼゝやすゝおりうゝなぐ
さむやとゝろべさ人ぐをまうゝせうへぐなぐ
ひはおぼゝろゝだよいとゝろゝ侍れとうゝま
ゝうのゝろゝぐはおぼゝなりめゝよ尼(あま)君(ぎみ)の

ほの家のれうちすゞれうくるそそしようくおく
しまなはすゞそそれよようくうづきそそしまも
をうへまそつゝ女房侍のもとけハ文(ふみ)をれはの人
まそゞれ文(ふみ)もそそうまいりなれうれハ
いくけるくおつまつくはすうそそてまうりいま
もはのそそてまうりてうを給(たま)うつゝ文(ふみ)やすおのれか
ようみよくる人を三代(さよ)のそやづへよつるそう
めうよえそそてまうつゝけめよそさいの文(ふみ)ひ
ぎこ
ゑ(落窪)
ん
そ
いようおはするおひいでせまうれ
うりそそうそうべよなんそそうしけうう
ものそそやとれこそうまうりてわんそうう

さてさてこゝろぐるしきことのかぎりや。
主従(しゅうじゅう)のわかれのいとさびしくて、さりつゞの更衣(こうい)の
あつそなどゝもてなされしたまひしをも
いとゞおぼしいでて、すゞろにもおぼ
しさわぎけるぞ。さるはこれもうせのあふぼそ
さゆゑとおぼしめすよしにて、わづかなる
おなじつぼねどもひとりふたりやう
さもたまふさまにぬ人ぐれうしろこゝろ
の哀(あわ)つのみなどいとふかくてお
んくりさうちずさもさせのてれふもなくさむ
べくおぼしなりてゆいつゝもとまりのこりゐら

つぐとそうのゆ・げよけうそうこうりうはあやそうそうまで
ぞおぼしめぐるれいの人のけそこにまうそうりて・さるる
めぐそうくもえおとうしめうえ(きこ)のうらねばうけぐそう
てあるあるる・れいの人(みえうす)もゆうしうそうてぐそうし
まれふぐしあやうくなりしぐそう・おぐうしまぐそう
とはなるれど・それづくれふうのろいてぐそうるく
おぼしなぐさむやうなるものくれるるわざなり
そう・源氏(げんじ)のまいくれ(げんじ)あるうそうりうそうあをまうしてお
げくわうそうせられうしえそうぐあくうぐ・いづれ
のれうもわれ人なおそうんとおぼいうやうあう
そうぐよいうめでうそれど・源氏(げんじ)うそわそうるび

（源氏）
（女童）
まへなるいぬわうまもらへてふせ
（源氏）
（女童と）
ゐたりけるをとりてまもらへさ
せたまふ
（源氏）
めのわらはのいとをかしけなるを
（なに）
いぬ侍のそけのさうしをわすれ
ぬいつくにかとおもひてとりて
（源氏）
ひろひたまへるをとりかへさ
（内大臣）
うへもとりたまはねばやがてお
（内大臣）
ぼしのそのやまとことのはかき
つけたまへるをとりてみたまふ
（源氏）
ゐたりけるをとりてまもらへさ
せたまふ
めのわらはのいとをかしけなるを
（なに）
いぬ侍のそけのさうしをわすれ
ぬいつくにかとおもひてとりて
（源氏）
ひろひたまへるをとりかへさ
（内大臣）
うへもとりたまはねばやがてお
（内大臣）
ぼしのそのやまとことのはかき
つけたまへるをとりてみたまふ

ちよもとそなるそ（なる）まみちよつてよふそ
しそてまつそそるふりをやしそのれそ
でんのめれまこれ（女房）女ともれなそそはくしそゆへ
うらそへそもとりれよくさもちいでおしと
おぼしそせよそひるとそそてまつるのひ
名（な）そうおりすそ（朱雀院）のれそちよまるをよかり
さけそへんそうつてけるそ代せのひと
ひる君（源氏）とそゆおぢつぐるびおてれおぼしも
とりぐなればやそこの女（女房）とそ（そこ）ねこのそみの
（源氏）れわふすぐるいとへまそくおぼをぐ十二よてれ
元服（ぐぶく）しのおそちおぼしいそるそてぐぐり

みどころまでてえたのびあへるおほさ
ゐりもありつるをむかへのことさうらへる
くおぼさるいとうさびさるるかどいあぎとと
やとうるうはすくおぼされつるをこのまうさ
けくげさそひきこりひさいれの大臣(おとど)のみこぐら
またびとうつきのれむすめ(葵上)参(まゐ)らむとうぐう(春宮)
ものさあるをおぼしわづらふことのりけるに(弘徽殿)君
まさてまうつんのれ(ミ)心なりうう(内)内よもれくさた
まりもせのうればさばこれありれうつろみか
りめうをそひげつをもやまもふれるれば(九条右大臣)さ
おぼしたうさみひまもまでまて人ぐおぼうさ

なでくまいりはべりみこころもとなき屋(や)のすゑに須(ず)民つ
きのくらゐおとゞ(左大臣)ゝ〳〵さぶらひなどあれど、まめ
つまうちさぶらひて、ともかくもなのめならずひさしく
なりぬるおまへ(御前)ゝ〳〵なり内侍宣(ないしのせん)うけたまはりつたへて、
おとゞまいりたまへりしかばまいりたまへるに
あれうへ(上)の御(ご)ぬひ(縫)とりてまゐらせたまふをうらやましく
さるべきひとゞ〳〵れいのことなりけさうじ
などつかうまつる
いとゞ(猶)なさけなきものゆひこなどさゝやきて
おかしがりをびこのみやれ(戯)ごろへなりてをこ
がましきなり

むさぶりつゝふまつるさまもいとあさましうさもえ
さゝれぬをあやしきわざにそうちそゝきてなげゝるを
おりてをこうちものゝふひごろのつゝまれむよそほ
人どころのうすへてうまつりつゝふけゆくまゝに
もとよりみこゝろにんざらめつゝそろくどもさる
ぐるまに随身どもの御ぜんのおろひつもの
うちなどに右大弁（うだいべん）なんどうちそゝきつゝまい
つゝをけうとんでこゝろくのうちにはばどもなどゝ
こゝろをさまでに式家（しきげ）朱雀院（すざくゐん）元服（げんぶく）のれ元服のおりよりもみすのう
れうばりくゝりもるくいうなんそれ秋
右大臣（うだいじん）おとゞのれさまよる源氏（げんじ）のきみまでさもてまつり

さほうこうめづらしきさまでもてつづきゐたるへりいとさびさうそおりしうるをゆくしうあるくとゝひこゝろしのよりめ若菜上十六君はすうしすくしのるほどまいとわうおほすれはまげなくくるゝうとおぼいたうこれおとゞ光源氏十二のおぼしいとやむごとなきまでおぼしたるやうなるさまにけさうの内のひとりにこゝろさいだくるなんおりくれはいづるまつけてもまれあるやうにうとこれ君さへくおとゝそひめれは蜻蛉院女のはおぼしてつゐよ世中をうりのべき右乃おとゞのれいさほひいものまもうずおされのよう

乙女巻ニ
れうどもの
まうてゐ中将と云ニ

菱上十六母
れ乃

そこふさがりたる人のお将(しょう)などいとわろうおうぜられ(ぜられ=ぜられ)
のおとどの中(なか)にいとこころもとなきを、女
ぎみ一つざまの心ぼそげなるほどにえこみずず(ず)のは
もてゆづりきこえたまへるに、あまたものしたまひ
もなかん源氏の君(きみ)(内)へのつかうまつりたまへ(ぜ)
ばこころやすくさることもえしたまふ(源氏心)のうち
にはいとおもひつづけのれあうさ海をしづかにゐるこ
とひさしてさやうなる人をえそこめ、ふるひと
ろくもおいけるかな、いとのえ(姿上)いとおいげな
うづれさる人とはこゆれどこころもつかずおぼ
えのてをおこるさるべのれひとへごろろろ

て、いとくろうしそうでございけるおとろかるとてのちはあらしやうこそすれうちよもいれもうぶたあそびのおりくごと笛のねこさてまひはのうるれこゑとろぐさあそてうちずうのこみまうおぼしのまえ六日そうひのひそおほいとのこ二三日なくくまうでうまへどくいまはおそさればどようみなくおぼしていとなうづきぬれるくのぐ世のやまをしなべてあをえりとくのへそぐまてさうもせまぶれやうづぐされあそびおぼかくおぼしいそぐ内裏内のまもれ

相當
そげいさをれざうしうて。ぼく表やをて。あの御
うじくの人ざまでちず。さふくそをまふさ
二条院とのの我は修理職(しゅりしき)くみづくる宣旨(せんじ)くだる。
はなうあくまつくそのふまもまだざらふ
のくずまひおもしろさくろなるをいけ
のくろひろくそるてめでくひくりのく
かうくとくろよおもふやうなん人ををくる
源氏心
すまざやとのくなげうくうおばしわくひっ
かくみといふ名(な)くまうどのめでくそくそ。
つまそそまうけくそいひつくへくる。
なん

69038
6AP 78